

505す

特集

スポーツ界で活躍する女性 有森裕子さん

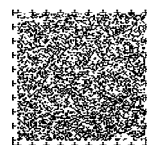
- 4 「世田谷区男女共同参画先進事業者」受賞事業者が決まりました
5 一人ひとりを大切にする やさしい社会へ「パパの育児休業体験談」
6 「DV防止法」が改正されました
7 パパのごはんおいしいね！【ほうれん草とベーコンのキッシュ】

あ
す
すへて
へて
すは
か
V.
V.
2013.12.1



この情報紙の表紙には、目の不自由な方などへの情報提供に役立てられている
音声コードを印刷しています。

「音声コード」は紙に掲載された印刷情報をデジタル情報に変えたシンボルで、約 2cm 角の中に日本語（漢字かな交じり）で約800文字の情報を記録することができます。専用の活字文書読み上げ装置を使用して音声で内容を聞き取ることができます。「音声コード」の横には、視覚障害の方が触覚によりコードの位置を把握できるよう、切り欠きを入れます。この情報紙らばらす68号に切り欠きを入れたものをご希望の方に配布しています。詳しくは人権・男女共同参画担当課までお問い合わせください。



「このように執着し、やり続ける。その過程こそ面白い」

走ることを始めたきつかけは中学の運動会です。たまたま800m走に空きがあつて挑戦したら、結果がよかった。「結果が出た」というのが一番のきつかけです。

マラソン自体は実業団に入ってから。「いつかはマラソンをやりたい」とは思つていましたが、オリンピックは夢の範囲でした。やはり結果が出ていないと想い描けず、「オリンピックが目標」と自分のなかに位置付けられるまでには、少し時間がかかりました。

もともと脚が丈夫でなく、走るには状況もよくなかつた私が、それでも走り続けてこられたのは、一つのことを執着してやり続ける——という姿勢を大事にしてきたから。目標に到達するまでの過程はさまざま。でもこの過程が面白いです！過程こそ、いろんなストーリーがあつて、無限の方法・方向があつて、それらを踏むことで結果が生まれる。だから私の場合、途中でどんなことが起きても、どうにかできると思つてしまふんです。まだ試していないことは山ほどあつて、知らないことだらけだと…。「それを探さな

い」私たちは諦められない」という感じです。

でもそついつ姿勢が逆に、これまでも色々なアイデアを生んできたし、自分の知らなかつた自分を周りが引き出してくれた——それはすごく今の自分に生きています。だから私にとって、諦めるというこ自体とても不思議です。本来、人間は持たなくていいはずの感覚ですから。

周りからよく「有森さん、そついつも頑張つていると疲れませんか？」と言われるのですが、それは疲れます。でも常に何でも本気で考え、必死に取り組むという姿勢、あるいは軸さえぶれないでいれば、自分が進む方向にプラスに働いてくれる何かが寄つてきて救つてくれる。そついつ流れのようなものはじつにかで押さえています。

そついつよいものを
自分に引き付けられるかどうかは、
自分の姿勢次第だと思つたんです。
私の姿勢は崩れないし、崩さない。
ですから私は前に進み続けます。

少なくとも前へ向かうことは絶対に、進まない要素があるとしたら、それは自分がやる気を失くしたとき。自分がマイナスの要素を生み始めたときには、たぶん前へ進まないと思う。だからその場合は周りが悪いんじゃない。悪いのは、自分なんです。

男性と女性
マラソンには
差はありません

選手の世界について言えば、もちろん国や地域によって異なりますが、現在では女性が進出するための環境が整つ

自分さえ整つていれば、ある程度のことには上手い。私は自分の「頑張る」とか「所懸命」とか「本気」という姿勢は崩しませんし、自分の軸からは外しません。

Special Interview

スポーツ界で活躍する女性 有森 裕子さん

’92年バルセロナオリンピックで銀、’96年アトランタオリンピックで銅と、日本女子陸上選手では初めて2大会連続で五輪メダル獲得を果たした有森裕子さん。’02年から9年間、国連人口基金親善大使を務めるなど、今やさまざまなシーンで活躍されている有森さんに、「スポーツ界における女性について」を中心に語っていただきました。

していると、私は思っています。少なくとも本人が選択できる社会にはなつてきているはずですし、形にするにはまだ時間がかかるかもしれないですが、言える社会にはなつてはいます。私自身は何もかも平等になるとは思っていないし、しなくてもいいと考えています。男性と女性では本来持っているものが違うのだから、違いはあつて当然だし、あつていい。ただ、違いを除けたところで、同じ評価が与えられるはずなのに与えられていないというのは多少残つていると感じます。私が選手生活を送つてきた陸上に

限つて言えば、男女に差はありません。大きなシティアマゾンで、女性が出場できるようになったのは、72年のポストンマラソン（※1）からです。今は、女性が出てはいけないという大会はマラソンにはありません。

ただ日本では男子マラソンと女子マラソンが分けられています。これは海外から見ればとても珍しいこと。日本が競技制という専門性を重視しているのに対し、海外のマラソンは、〇〇チャリティマラソンだったり、〇〇記念マラソンだったり、つまり趣旨（テーマ）を準拠として作られているので、「男女」に関係はないのです。たしかにケニアのように、黒人の女性ランナーが出られるようになるまでに時間がかかった国もある（※2）ので、これは一概には言えません。

「同じ能力・同じ条件」が
私の基準

スポーツの世界で、特に指導の現場には女性がまだまだ少ない。それは女性が望まないのか・望めないのか、あるいは望んでも却下されるのか、その辺のデータがどれほど出てくるかはわかりませんが、「あえて選ばない女性」もいる、私は思っています。

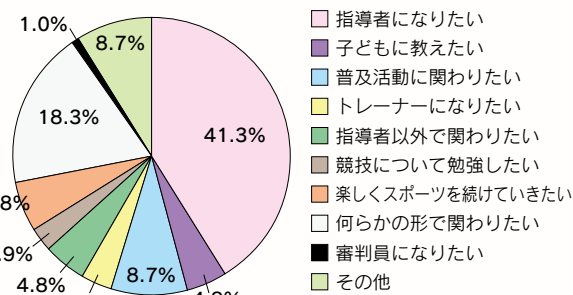
それに、「コーチは本当にフル・フル・タイムなので、たいへんです。」「仕事と家庭との両立」という観点で言えば、夫が「主夫」にならないと無理。もちろん、そついつスタイルを互いが認め確立していれば問題はないと思いますが、ただそついつことができる状況はあまりないのではないのでしょうか。

私が感じているのは、出産できるはずの女性が、それを選ぶのか・選ばないのか、選びたいのか・選びたくないのか、どつちに優先順位を置けるのか——といったことについて、日本の社会が、もつと言えは女性自身が作つているところもあると思う。子どもを産まない選択をする人とか、自分の進

有森 裕子（ありもり ゆうこ）

1966年岡山県生まれ。就実高校、日本体育大学を卒業して、（株）リクルート入社。バルセロナオリンピック、アトランタオリンピックの女子マラソンで銀メダル、銅メダルを獲得。
2007年2月18日、日本初の大規模市民マラソン『東京マラソン2007』でプロマラソンランナーを引退。
1998年NPO法人「ハート・オブ・ゴールド」設立、代表理事就任。
2002年4月アスリートのマネジメント会社「ライツ」（現 株式会社RIGHTS.）設立、取締役就任。スペシャルオリンピックス日本 理事長。他、国際陸連（IAAF）女性委員会委員、日本陸上競技連盟理事、国連人口基金親善大使、笹川スポーツ財団評議員、社会貢献支援財団評議員等を歴任。
2010年6月、国際オリンピック委員会（IOC）女性スポーツ賞を日本人として初めて受賞。同年12月、カンボジア王国ノロドム国王陛下より、ロイヤル・モニサラボン勲章大十字を受章。

図1 引退後どのようにスポーツに関わりたいか
（自由記述 n=104）



出典：JOC 女性スポーツ専門部会（2012年）

※1：1967年、キャサリン・シュワイツァーという女性が男性名で登録し出走。レース途中で係員に発見され引き出されようとしたところ、周りの男性ランナーらに助けられ、守られながらゴールにたどり着いた。’72年大会から正式に女性の参加が認められた。 ※2：1992年時点では黒人の女性ランナーの出場は確認されていない。



受賞事業者

医療法人 柏堤会 奥沢病院 (世田谷区奥沢2丁目)

患者様の意思とプライバシーを尊重し
心のこもった質の高い医療サービスを提供します

取組内容

- ★24時間利用可能な院内保育室を設置
- ★法定を超える(小学校就学前まで)育児短時間勤務
- ★出産等でblankがある看護職員を対象に復職支援研修や再就職セミナーを開催

働くお母さんを
応援・支援
します



看護部長
村田さん

株式会社ユー花園 (世田谷区桜新町2丁目)

花のもたらす喜びを
世界中に伝えることにより、
豊かで彩りに満ちたライフスタイルと
文化の向上に貢献いたします

取組内容

- ★育児休業取得前から復帰に向けてのプログラムを作成
- ★すべての業種で採用から研修、昇進に至るまで男女平等
- ★男女がともに働きやすい職場環境の整備

明るく楽しく
生き生きと働ける
職場です！



本社業務部
第4課課長
山下さん

仕事と生活の両立支援や、女性の能力活用などに積極的に取り組む「平成25年度世田谷区男女共同参画先進事業者」が決まり、表彰式を10月19日(土)に世田谷区産業表彰式と合同で開催しました。受賞事業者の取り組み内容を紹介します。



昭和信用金庫 (世田谷区北沢1丁目)

地域社会の一員として、
地域で事業を営んでいる方や住民の皆様との
「強い絆とネットワーク」を形成し、
地域経済の持続的発展を目指していきます

取組内容

- ★育児休業取得者には代替要員を確保
- ★育児休業後は自宅から近隣の店舗へ配属
- ★女性の職域を拡大し、人事考課の評価項目に女性の活用を入れている



事務集中課課長
(平成14年育児休業取得)
Tさん

理解ある金庫と
頑張った娘に
感謝しています

利恵産業株式会社 (世田谷区三軒茶屋1丁目)

惣菜は愛
「母親の手料理のように」をモットーに
お惣菜を製造しています

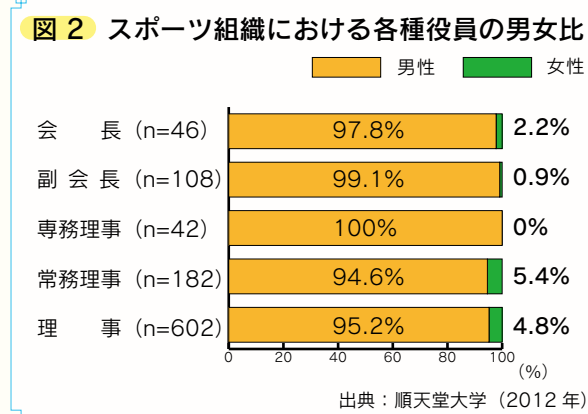
取組内容

- ★育児休業取得制度の活用を積極的に奨励
- ★育児休業後は、フレックスタイムや短時間勤務等柔軟な働き方ができる
- ★多くの職種で女性の割合が高く、女性を積極的に活用



品質保証課
品質管理係係長
Uさん

会社の配慮で
休みが取りやすく、
自分のペースで
仕事ができます



生き方というものは最終的には
その人本人の意志次第です。

国連人口基金に携わっていたときに
すぐ思ったことなのですが、女性の
権利やそれを取り巻く現状を作ってい
る現場に、やはり女性はいいます。そこ
で女性がつけている状況もいっぱいあ
ります。そうした流れに乗ってしまっ
ている女性もいる。

たしかに動かせないものは少なく

チャンスさえあれば、
人間は無限大に変われる

「20年東京オリンピック」の開催が決
まりました。今のところ出られる可能
性が誰にでもあるわけですから、7年
後に向けて、一日一日「瞬間」を頑張るこ
とを継続して取り組んでほしい。
そうすれば、本当にオリンピックに出

なってきたいるかもしれない。が、
そういう感覚から抜け出せない女性が
いることで起きている問題も、あると
思います。
スポーツ界に女性の指導者がもつと
増えてほしいと思います。でも、た
だ増やすのではなく、同じ条件を持っ
ているのなら、ということが前提
です。同じ能力があるのに、あるいは
性別上の違いはまったく関係ないのに、
「男性が優先される」のはおかしい。人
を見る際に唯一私がしてほしいくないの
は、それだけです。
世の中には、男性であっても女性の
ような人もいます。女性でも男性のよ
うな人もいます。ですから、このこと
はすべてに共通して言えることだと思
うのです。つまり、「同じ能力・同じ条
件」という前提が、人を見る時にそろ
えられる、私の基準だということです。



知的障害のある人たちにスポーツ活動の機会を提供し、社会参加を応援する国
際的なスポーツ組織「スペシャルオリンピックス(SO)」の世界大会の様子。
写真上：2007年SO夏季世界大会・上海
写真下：2011年SO夏季世界大会・アテネ



写真提供：スペシャルオリンピックス日本

られます。
ただし、です。誰でも出られるので
すが、途中でやめてしまつたらまず出
られないし、本当に出たいと思わない
といけないし、やるべきことを本当に
やらなければいけない。でもそれさえ
できれば、誰にでも可能性はある。断
言します。

私だつて初めてオリンピックに出た
その7年前は、まったくの普通の人で
した。それでも、変えられた。自ら出
られないと思つたら出られない。でも
「絶対に出来るんだ」と思い続けた
ら、可能性はあるんです。

私は今、知的障害者のオリンピック
であるスペシャルオリンピックスに出

場する選手たちへの応援活動に取り組
んでいます。次期大会である15年夏季
口スアンゼルス大会への出場を賭けた
国内選考会が来年、福岡で開催され
ますが、そこで、おそろくみなさん
が何もできないだろうと思つている知
的障害のある方たちが、チャンスをも
らつてこれだけ変化しているか、実際
に見ていただければよくわかると思
います。

チャンスさえあれば、
機会さえあれば、
「人間は、どうにでも、無限大に変
えていける生き物なのだ」と。

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現には、働く場としての企業の理解や取り組みの促進が重要です。また、その取り組みは企業にとっても業務改善や生産性の向上、人材の確保等、事業の効率化につながるものです。区では、今後も企業へのワーク・ライフ・バランスの理念の普及と理解の促進を図っていきます。